

知的生産の技術 アンケート(20051219)

1

八木先生のお話を聞いてヒントをもらいました。
八木先生ほどではないけれど、私も昔住んでいた家のことをよく覚えていたり思い出したりします。
何故なのでしょう？
先生のテーマも聞いてみたかったです。

自分史は作文よりも作品である。
作品とは、人に読ませるために書くものであり、それ自体に価値がある。
そのために読ませる力が必要である。
自分を描くためには、自分だけ描いてはわからず、他人を描く必要がある。
他人や周りのことを描かないと、自分を描けない。
主観的な自分をもう一人の「自分」が客観的に見ると、自己分裂に苦しむが、この自己チェックは大切である。うそは書かず、自分をさらけ出して書く。
自分史を書き出したら、自然と長く書けるようになり、ネタには不自由しなくなると考えられている。
八木先生の話聞いて、自分史の書き方について、様々ど知ることができました。
又、自分がこれまで知らなかった内容が多かったので、この話はこれから自分史を書くためのよい機会だと思います。

八木先生の両親に対する思いが自分史を書かせる原動力になっていると思った。
そう考え、自分のことを考えてみると自分史を書くための原動力は大学を卒業してこういう自分になりたいという希望、夢であると思う。
それを秘めながら今日、八木先生から教わった自分史の書き方で自分なりの自分歴を書こうと思う。

2

八木哲郎先生の天津15歳までの生活全般、いろいろご苦労されたんですね。
15歳で弟妹三人で引き上げてきての人生を再度お話を聞きたいです。
ありがとうございました。

4

私は今2年生ですが、数ヵ月後(?)から始まる就職活動にはまず自分を知る必要があると先輩に聞き、自分を振り返るこの授業の重要性を改めて感じながら今日授業に臨みました。

八木さんの本がちょっとしか見えなかったけど面白そうで、じっくり読んでみたいと思いました。八木さんの言葉は一つ一つ重みがあり、はっとさせられるような言葉ばかりでした。長い文を書くのは苦手ですが、いままで書きとめた自分史のモトと図を使いながら、わかりやすい自分史をできるだけ長くかけるようにがんばります。

お話を聞いて、自分史をどのように書いたらいいかイメージすることができた。
今までの振り返り作業では主によい出来事を思い出そうとしていたけれど、ネガティブな思い出も積極的に思い出すことが大切なのだった。
何十年後かに、見直して大学生の時に自分史を書いていて良かったと思えるものができるようにがんばりたい。
八木先生は、私の祖母と同じ年代だったので、八木先生のお話や写真を見て祖母もそのような時代にそだったんだなあと感じた。
私も家族にいろいろなことを聞いてみたいと思った。

最近自分がどういふ人間かと考えることが多く、なんとなくわかってきたような気がしていたのですが、勘違いだったのでしょうか。
「自分で自分がわからなくて当然」自分がこれからどう変わっていくかは自分でわからないということも納得できるような気がします。
自分もトラウマがあるのですが、本当にいつか抜け出せる時がくるのか不安です。
早く新しい自分を始めたい。
久恒先生がおっしゃった、自分を変える方法には目からウロコでした。
大学に来て自分が変わった理由が納得できました。
余談ですが、先日のフィギュアスケート浅田真央ちゃんのコメントを聞いていて、彼女はタイプ1かな?と思いました。

5

自分史は作文ではなく作品であるということは、読み手に面白く読みたいと思わせる内容にしなければならない。そうすると、もっと細かく具体的に出来事を思い出す必要がある。自分を書くには他人を書くというのは意外な発想だなあと感じた。自分のことは6~7割くらいしか正直わからない。残りは他人から聞いて自分がどのような人間なのか明らかにしていきたい。そろそろ自分史もまとめの段階であるので、自分史から自分のテーマを見つけられるようにじっくり考えていきたい。

高齢でありながらいまだに幼少時の記憶を鮮明に覚えていることに感銘を受けました。

小さいつまらない出来事でも書き出すことによっていもづる式に記憶がよみがえってくるという発想に納得しました。

7

自分史を書く上で、どのように書けばよいのかわからなかった部分が、今回の特別講演の八木先生の話によって理解できたので、本当によかったです。

人の話や自分の話は面白いということでしたが、これを面白いと認識出来る感性を身につけたいと感じました。

自分史は作品、つまり自分史とは価値があるもの・・・そう考えてみると、今までの自分の歩んできた人生も誇りに思えてくる感じがします。

6

八木先生の記憶力は常人離れしていらっしゃると思った。おそらく普段の生活のすごし方が違うのであろう。いろいろな細かいことを注意深く観察されたり、深く考えていらっしゃるから、それが結果的に記憶にのこるのではないかな。がんばって自分史を書きあげようと思った。

八木さんの人柄が素敵だと思った。

自分史を書くポイントがわかった。でも、もっと話を聞かせてもらいたいです。

時代についてはあまり重要じゃないと思っていたけど、時代によって人はかわるのかなあと感じた。

「トラウマ」についても、ありのままを書くことで何が原因なのかわかればよいかなと思った。

何を書くのが漠然としていたときに、八木先生のお話を聞いたことでイメージができた。自分について、他人について、時代についてポイントを置きながら書いていきたいと思う。先生の自分史は、戦争、親のことがメインになっているそうで、実際本を読んでみたいと思った。思いついたままに書き出すとまとまりがなくなりそうで、どうつなげていこうかは難しそうだが、この機会に自分をよく見つめなおしていきたい。今日はお話が聞けてよかったです。

9

今日の講義を聞いて、自分史をどのように書けばよいかがだいぶわかった。早く書いて、どのようなものになるのか、見てみたくなった。

八木先生の身の上話は聞いていて面白く、もっと聞きたいと思った。私の自分史にいかせそうなことが多かったので、作品に近づけられるように書いてみたい。

自分を語るには、自分の周りの「人、こと」も語る必要がある。

自分で自分のすべてをすることは出来ない。という言葉が印象的だった。また、自分をもう一人の自分が見るような、客観的な支店ということも大切なのだと感じた。自分のよいところ、よかったころの話ばかりをかいつまんで書いていたら、ただの自慢話になってしまって、読み手の興味もなくなるし、リアリティーも低下するのではないかと感じた。

先鋭は、かなり昔のことなのにしっかり覚えていらっしゃるの、とてもすごいことだと思いました。たぶん、戦争という大きな出来事があったから、印象にも残っているということもあるのかもしれません。

かなり驚きました。自分も、年をとっても、今、そして小さかったころのことをしっかりと覚えていたいものだと思います。